

## 研究計画書

ゼミ名	永廣ゼミⅡ	チーム名	エヒロノミクス
タイトル	社会保障の危機～進行する少子高齢化～		
テーマ群	b) 財政・金融 c) 公共経済		
メンバー	梅田智也 梅原紗綾 小野絢香 柏原祐希 亀田莉生 島田歩惟 橘慎平 中谷果奈 橋本里菜 平川彩奈 丸橋篤史		
研究計画内容	<p>1. 研究の目的</p> <p>現在の日本の財政においては、社会保障費が膨張し財政赤字の拡大が続いています。それに対応して、2014年4月から消費税が8%に引き上げられ、2015年10月からは10%に引き上げられることが予定されています。社会保障費が膨張している背景には少子高齢化の進行があると考えられます。そこで私たちは、現在の社会保障制度、特に年金と医療ついて問題点がどこにあるか、これからの社会保障制度がどうなっていくか、また社会保障を持続していくにはどうするべきかを研究します。</p> <p>2. 研究の内容</p> <p>日本では少子高齢化により、年金や医療費といった社会保障給付の財源不足など様々な問題が起こっています。その対策として行われた消費税増税でも社会保障給付はまかないきれておらず、まだまだその財源は足りていない状況です。このような社会保障の危機に対して私たちは、社会保障制度そのものの改善も必要ですが、同時に、根本的な問題である少子高齢化への対策も必要であると考えます。特に、出生率を上昇するためにどのような少子化対策が望ましいかを考えていきます。</p> <p>3. 期待される成果</p> <p>少子化対策として私たちは、①国や地方自治体から保育・教育費、医療費、児童手当などの資金を援助してもらい、②女性が働きやすいように、在宅勤務の検討やフレックスタイム制を導入するなどの女性労働の環境を見直す、③地域のコミュニティを改善し周囲と協力することで子育てしやすい環境をつくることの3つを提案します。この3つを行うことで少子化は改善されると考えます。</p>		